

# 私でもできるボランティア

- 1 献血
- 2 骨髄ドナー登録
- 3 臓器提供意思表示



▷問い合わせ 健康づくり係  
(☎223局3533)

## 1 献血

血液は人工的につくることができません。病気の治療や事故などの手術で1日に3000人もの方が輸血を必要としています。血液は長期保存ができないため、定期的に献血を行っていただき必要な血液を確保する必要があります。

献血は常設の献血ルーム以外にもさまざまな場所で定期的に行われています。芦屋町でも年3回役場玄関前にて献血バスによる献血活動を行っています。また年2回献血ルームくろさきクローバーまで送迎バスをだして成分献血への協力を呼びかけています。



献血ルームくろさきクローバー

### 【献血バスによる献血】

●年3回、役場玄関前で実施

●400ml献血

●男性17～69歳、女性18～

69歳で体重が50kg以上の人。ただし65歳以上の献血は60～64歳に献血をしたことがある人

※11月18日(日)・午前10時～正午、午後1時～3時30分に行います。皆さんのご協力をお願いします。



### 【成分献血】

●年2回実施

※役場から献血ルームまで送迎を行っています

●血小板成分献血：男性18～69歳、女性18～54歳

●血しょう成分献血：18～69歳。ただし、65歳以上は60～64歳の間に献血経験がある人。ともに体重が45kg以上の人



## 3 臓器提供意思表示

臓器を提供する、移植を受ける、私たちはどちらの立場にもなる可能性があります。「臓器提供はしない」でもかまいません。“今”の意思を表示しましょう。臓器提供意思表示は運転免許証、健康保険証、臓器提供意思表示カードに記入できます。また臓器移植の意思は日本臓器移植ネットワークのホームページからも登録できます。

▷臓器移植に関する問い合わせ 日本臓器移植ネットワーク (☎0120-78-1069)



日本臓器バンク



日本臓器移植ネットワーク

問い合わせ  
ボランティア活動センター  
(☎2221局1011)

## 地域での見守り活動

全国的に高齢者の一人暮らし世帯や介護を必要とする世帯が増えています。このような状況は芦屋町も同様で、高齢者の見守りは大切な地域活動の一つと言えます。ボランティア活動センターに寄せられた芦屋町での見守り活動をお知らせします。

### ◆あしやまち助けあい・支えあいの会（あしたの会）の生活支援

あしたの会は、生活の困り事などの依頼を受け、支援する活動をしています。本人からの依頼だけでなく、別居の家族からも見守りを依頼されることが増えました。安否確認と同時に、生活状況の確認をしています。

### ◆粟屋区の特別区民の設置

病気などの問題を抱え、一人暮らしをしている75歳以上の人を特別区民として見守りを行っています。

このほかの地区でも、愛のネットワークやサロン活動をと

して見守りを行っています。

### ◆ボランティア活動センターの関係課との連携

センターで活動する人の変化を見逃さないようにしています。歩き方や話し方が以前と大きく違う時などは「変わりありませんか」と声をかけ、日常生活や体調に関する話を話します。話すことをつじつまが合わないなど心配な場合は、福祉課に連絡しています。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるように、みんなで見守り活動を続けていきましょう。



## 差別をなくすために 第425号

### LGBTの人権

皆さんは、LGBTという言葉を知っていますか。LGBTとは、Lレズビアン（女性同性愛者）、Gゲイ（男性同性愛者）、Bバイセクシャル（両性愛者）、Tトランスジェンダー（からだの性とこころの性が一致しない人）の頭文字を取った言葉です。LGBTは人口に占める割合が少ないことからセクシャルマイノリティ（性的少数者）を表す言葉の一つとして使われることもあります。近年では、LGBTの認識が社会に広まりつつありますが、それでもLGBTの人に対する差別や偏見は後を絶ちません。

LGBTの人に対する差別や偏見がなくなる大きな原因の一つに、身近にはいないから自分には関係ないと考える人が多くいることがあげられます。しかし、調査によれば、LGBTの人の割合は日本人の約10人に1人とされており、これは左利きの人の割合とほぼ同じなのです。これだけ多いにも関わらず、周囲にLGBTの人がいないと感じるのは、いないのではなく、周囲の環境や理解が得

芦屋町人権・同和教育研究協議会



られないため、言い出せない状況をつくっている可能性があります。実際にLGBTであることが周囲に知られたために、心ない言葉で誹謗中傷され、仕事や学校をやめるなど最悪の場合は自殺する事例がありました。LGBTの人は、周囲の理解が得られないと孤独感や不安感を持ち、友人や家族と信頼関係を築くことができなくなってしまいます。差別や偏見をしないから関係ない、身近に当事者がいないから問題ないと無関心でいることは、結果的に差別や偏見を見逃し、助長してしまうのです。

差別や偏見が原因で、社会の中で生きづらさを感じているLGBTの人は、少なくありません。一人ひとりの性格や考え方が違うように、性のあり方も人それぞれです。周囲と違うから本当の自分を隠して生きようと悩み、不安を抱える人がいる社会ではいけないのです。私たち一人ひとりが性のあり方について正しく理解し向き合うことで、誰もが自分らしく生きていける社会をつくっていきましょう。

▷問い合わせ 社会教育係 (☎223局3546)